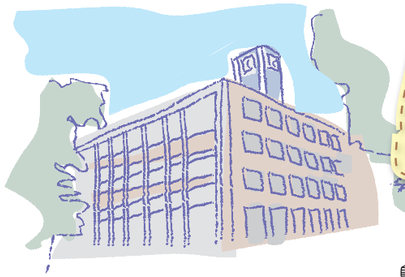


第21号

トリせつ

トリせつとは…？

―鳥大説明書―

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。
学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

※撮影時のみマスクを外しています。

鳥大見聞録 ～AERO me! 編～

今年の4月から新たなテイクアウト専門店「AERO me!」がオープンしました!
コロナ禍での食堂利用に不安を感じた方も、
温かいお弁当を食べていただくことができます。
今回のトリせつでは、「AERO me!」の担当者の方を取材しました!

鳥取大学生活協同組合
木南 僚太さん

AERO・AERO me! 店長
藤原 辰哉さん

Q 「AERO me!」という名前の由来を教えてください。

A 元々「aer（エアロ）」はラテン語で「空気」を意味しています。「AERO」は人と人とが出会ったり、食と出会ったりする「会える」を、「me」は日頃から「自分」自身に対してチャレンジしている学生の姿をイメージして名付けました。

Q どのメニューが人気ですか？

A 最も人気なメニューはチャーハン＆から揚げ丼弁当です。他にも、カツ丼弁当やハンバーグロコモコ丼弁当も人気があります。

Q お弁当予約とはどういうものでしょうか？

A AERO me! で販売しているお弁当の予約注文ができます。慣れると1分くらいで操作でき、1週間先まで予約が可能です。予約すると確実にお弁当を購入できます。

My coop+を利用したお弁当の予約方法

＊8月末まではMy coop＋アプリ、9月からは生協マイページからご利用が可能です。

1. はじめに、My coop+のアプリをダウンロードし、ログインを行います。次にHOMEにある「お弁当配達予約」を選択します。

2. 「配達予約」を選択し、エリア・配達日の選択を行います。

3. 予約するメニューの選択を行います。

4. 最後に、予約内容を確認し、電話番号を入力して「予約注文完了」を選択します。

トリせつを見てくれた人への企画【生協コラボ】 「トリせつを見た」という方に生協弁当を50円引き！
対象期間：10/1～29
＊お一人様1回まで

感想

取材を通して、生協の職員さんたちが私たち学生のことを第一に考えてくださっていると知ることができました。これからもたくさん利用して、学生生活を充実させていきたいです。(取材スタッフ　藤原)

今回初めてアプリでお弁当の予約を行ったのですが、簡単ですごく便利だと思いました。みなさんも講義や実験などで時間に余裕がないときにはぜひ利用してみてください！(取材スタッフ　榮)

いつでも温かい弁当が食べれるのが非常にありがたいです。担当者に色々な話を聞いて、コロナ禍でテイクアウト専門店は非常に有意義だと思います。(取材スタッフ　唐)

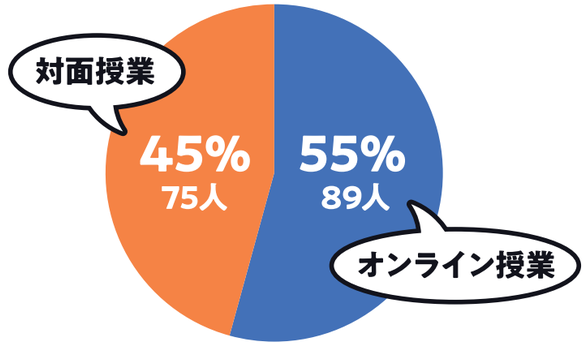
AEROは利用したことがあるのですが、AERO me！はまだ無いので、今回の特典を利用してお弁当を購入してみようと思います。(取材スタッフ　伊丹)

鳥大アンケート

コロナ禍での学生生活編

昨年度(2020年度)に発生した新型コロナウイルス感染拡大によって、様々なことがオンライン主体になり、大学生活も様変わりしました。今まで経験のない事態に鳥取大学生はどう感じ、どう過ごしているのでしょうか。学生164人に緊急アンケートを行いました。

授業編　オンライン授業と対面授業、ズバリどっち派？



対面派
- 友達・知り合いに会える…62.8%
- 授業に集中できる…26.2%
- 質問しやすい…4.3%

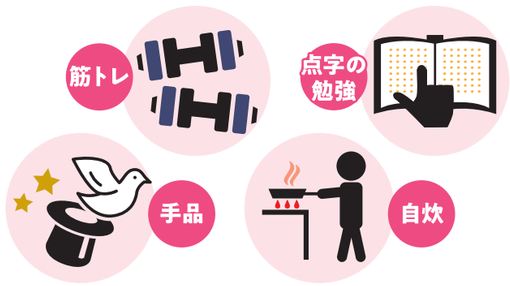
オンライン派
- 場所・時間・服装に融通がきく…65.2%
- 授業を見直すことができる…21.3%
- 一人で学習でき、効率的…11.6%

まずは、コロナ禍で大きく影響を受けた授業形態について聞いてみました。今まで通りの対面授業orオンライン授業(ライブ配信＆オンデマンド授業)でどちらが良いか聞いてみたところ、オンライン授業派が対面授業派を僅かに上回りました。オンライン授業を選んだ理由として、「場所・時間・服装に融通が利く」、「授業を見直せる」、「1人で学習できて効率的」といった声が聞かれました。
一方の対面派の学生からは「友人に会える」、「授業に集中できる」などの意見がありました。また少数ながら「対面授業は非効率で全く必要ない」、「オンライン授業は課題が多いから嫌だ」という声もありました。
オンラインにはオンラインの、対面には対面の良さがそれぞれあって、学生の好みも様々ということが分かりました。

生活編　コロナ禍での過ごし方

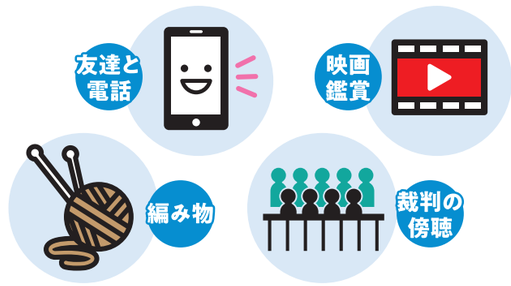
新しく始めたこと

コロナ禍での自粛生活をきっかけに新しく始めたことについて聞いてみました。多くの学生から「筋トレ」や「英語や資格の勉強」を始めたという声が聞かれました。また「生活リズムを整えた」、「自炊をするようになった」など、コロナ禍を通じて今までの生活を見直した学生が多くいました。「マッチングアプリ」や「点字の勉強」、「手品」を始めたというユニークな学生もいました。



三密を避けて楽しめること

密閉・密集・密接のいわゆる三密を避けて楽しめることについても聞いてみました。NetflixやYouTube、Huluなどの「動画配信サービス」を使って映画やドラマを楽しんでいるという意見が最多で、ついで「オンラインゲーム」、「読書」があげられました。また「Zoom飲み会」や「友達との長電話」といったオンライン上での人とのつながりを楽しんでいる学生も多くいました。少数派の意見として「編み物」、「裁判の傍聴」などがありました。



感想

コロナ禍で家にいる時間を利用して、いろいろなことに取り組んでいることが分かり面白かったです。僕も何か始めたいと思います。
(取材スタッフ　岡村)

同じ大学生という立場ではありますが、様々な意見があり、とても興味深かったです。限りある学生生活、後悔しないように過ごしていきたいです。
(取材スタッフ　田中)

コロナ禍のみなさんの生活が窺い知れて楽しかったです。アンケートに答えてくださった皆さん！ありがとうございました！
(取材スタッフ　足立)

学生広報スタッフ募集中！！
WEBサイト　Twitter　Instagram

取材にご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

ご意見・ご感想はこちらまで→ ✉ gakusei_kouhoustaff@yahoo.co.jp
編集発行：鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ／2021年8月発行

●所属・学年は取材時のものです。

わたしのトリくみ

ダイバーシティキャンパス推進室編

ダイバーシティキャンパス推進室は、多様な個性・価値観を尊重し、偏見、差別及びハラスメントのないキャンパス作りを目指している学内組織です。

オンライン授業を通して鳥大生にとって馴染み深いものになったeラーニングシステム「manaba」。その中にある『ダイバーシティキャンパス推進室』のコースを見たことがある学生も多いのではないでしょうか。皆さんはどのような活動をしているのかご存じですか?

今回は鳥大に関わる全ての人必見のダイバーシティキャンパス推進室について取材しました!

Q名称変更した理由を教えてください。

A男女共同参画推進室に関わる中で、『男女』という言葉に違和感を感じていました。多様性の中にはLGBTQ(※1)という性的マイノリティ者(※2)の方だけではなくて、国籍、人種、障がいの有無、年齢など多様な人たちが大学にいらっしゃいます。その方々が大学という場所の中で、自分の能力を発揮できる環境を作っていく必要があるのではないかと考えました。自分には人に知られたくないところがあるから、なかなか力を発揮できないのではなく、自分を出しても認められる大学にしていく必要があると考えています。しっかり勉強や仕事ができたり、自分の能力を発揮できるという環境、キャンパスにしていこうということです。

※1:レズビアン(女性同性愛者)ゲイ(男性同性愛者)バイセクシュアル(両性愛者)トランスジェンダー(心と体の性が一致していない方)に加えて、自分の性がわからないという「クエスチョニング」と性的少数者を表す「クィア」のQを加えた、セクシュアルマイノリティ全般を表す言葉

※2:性的少数者・セクシャルマイノリティ

Q ダイバーシティキャンパス推進室の開室のきっかけを教えてください。

A2011年に男女共同参画推進に関わる方策の企画や実施等を行うことを目的として前身の「男女共同参画推進室」が開室され、主に女性研究者の研究活動の支援を行っていました。産休や育児休職などの理由で大学から一度離れてしまうと復職後に研究の継続が難しいという現状があります。そこで、研究支援員制度という制度を作ることによって研究を補助する人を当室の予算で雇用するという取り組みを始めました。女性の研究者に対しての取り組みとしてはじめましたが、男性の研究者の中にも育児や介護をする方がいらっしゃることから男性の制度利用も増えています。

ダイバーシティキャンパスコーディネーター
(キャリアコンサルタント)
長谷 順子(ながたに じゅんこ)さん

Q どうして学生スタッフを入れようと考えたのですか?

A大学を構成する人々の大部分は学生です。大学を変えていくためには自分たちが変えていくという気持ちを皆さんに持ってもらうことが重要だと思っています。その視点を持ってもらうために、学生の目、学生の力が必要だと考え学生スタッフを作ろうと思いました。

Q学生や教職員に一言お願いします。

A「サイレントマジョリティー」という曲をご存知でしょうか。この曲の歌詞を通して、黙って意見を言わなければそれは差別していることと一緒だということを知ってほしいです。マイノリティの方々のことを考えて行動してほしいと思います。

Q推進室ではどのような活動をしているのですか?

Aまず、毎年6月の最終週にある男女共同参画週間でダイバーシティセミナーを行っています。今年は「じぶんらしくいきる」というテーマで、性的マイノリティ者への理解を求めるだけでなく、性的マイノリティ当事者に向けての想いも伝えたいと考えました。
その他にも、今年は開催できませんが、夏休み中のお子さんを預かる夏季学童保育や、女子学生のキャリア支援のための企業見学会、出産・育児とキャリアを考えるライフプランセミナーなども開催しています。

Q今後どのような活動を行われる予定ですか?

A今やっている動きとして、性別表記をなくしていこうと思っています。
皆さんが、大学に何かを申請するときや証明書をもらうときなど性別欄があると思います。それを基本的には無くす方向で動こうとしています。

ダイバーシティキャンパス推進室の学生スタッフの皆さんにインタビューを行いました。

↑
学生スタッフのInstagramはコチラから

ダイバーシティキャンパス推進室の学生スタッフになったきっかけはなんですか。

三好:大学に入学する前から性的マイノリティに関心がありました。大学1年生の時に大学入門ゼミの授業で、ダイバーシティキャンパス推進室は、キャンパスでの多様性を実現するため活動を行っていると聞いて、性的マイノリティへの理解を広げることに携わりたいと思いました。それを実現するため、当室の学生スタッフになりました。

藤原:三好さんの性的マイノリティに対する想いを聞いたり、当室の活動を授業で聞いて興味を持ったのがきっかけです。

山本:昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で大学に行けない日々が続き、学生らしい活動に参加できませんでした。その時に三好さんからダイバーシティキャンパス推進室の学生スタッフの存在を教えてもらいました。学生としてできることがあることを知って、活動してみたいと思いました。また、充実した学生生活を送りたいと考え、学生スタッフになりました。

武久:大学入門ゼミの授業でこの部屋の存在を知りました。元々は目に見えない障がいがある方がいると聞いて、みんなが生活しやすい大学にしたいという思いがありました。この部屋が気になっていたときに三好さんに声をかけてもらって、学生スタッフに入りました。

井手:友人の三好さんから学生スタッフの話を聞いていたことがきっかけです。大学入門ゼミで告知があり、関心がありましたが実際に何をするのか・していくのか具体的なイメージが湧かず、一歩を踏み出せずにいました。三好さんが一人で飛び込んで、長谷先生との話やマイノリティについて学ぼうとしていることを聞きました。その時に自分も一緒に勉強して、誰もが過ごしやすい大学をつくりたいと思いました。

これまでどのような活動を行ってきましたか。

三好:昨年はイスラム教への理解を深めるためのセミナーを行いました。学生スタッフはそのセミナーに向けて、学生にアンケートを取り、学生の中でのイスラム教への理解度の調査をセミナー前の段階で行いました。

藤原:セミナーを聞いた方が大学に働きかけてくれて、生協食堂にハラル(※3)カレーを導入してくれました。イスラム教の方が安心して食べられるカレーを生協食堂に置くことが実現したのが大きな成果でした。

※3 ハラル…イスラム教の教えに則って許されるもの

「イスラム教を知ろう」を企画する前と企画を終えた後の印象の変化はありましたか。

三好:イスラム教に対する私のイメージは、ニュースで取り上げられる過激派の活動の印象が強く、少し恐怖心があり、私自身がイスラム教に対して偏見を持っていました。しかし、モスク(※4)を訪れたときにイスラームとは〝平和〟という意味なので、イスラム教は平和を重んじる宗教であるということを知りました。さらにセミナーを受けたことで、遠い存在だと思っていたイスラム教に親近感が湧きました。ハラルメニュー等、イスラム教に関するものが私たちの日常の身近なところにあることに気付かされました。

※4 モスク…イスラム教の礼拝堂

藤原:最初に持っていた印象は三好さんと同じですが、私はイスラム教について勉強してみて、優しい宗教だと思いました。食肉に関しては、イスラム法の決まりに則って処理された肉しか食べてはいけないことを知りました。

どういった想いで活動していますか。

三好:今年は女性の生理の問題について取り組んでいます。私自身が持っている生理への感覚や、自分が生理を経験する中で思っていることだけではなく、社会にはどういう人がいるのかといった幅広い視点を持って活動することを重視しています。

藤原:自分が見ている世界と他の人が見ている世界が違うこともあるので、みんなが広く同じ共通認識を持てたら暮らしやすくなるのではないかと考え、活動しています。

山本:三好さんと藤原さんが言っている多様性が、大学として当たり前で身近になってほしいと思っています。その為に学生の視点で、大学に関わる人に対してできることがあるということを活動の中で常々意識して取り組んでいます。

武久:生理の問題については社会的にも問題視されているだけではなく、当室でも問題に取り上げていることから社会と大学がリンクしていると感じています。本当は困っているけど言い出せない人達がもっと気軽にSOSを出せるような環境作りに私達も携われたらいいなと思います。

学生に向けて一言お願いします。

山本:生理の問題についての活動はアンケートを活用していこうと考えているので、私たちが行う活動によかったら協力して欲しいです。それを踏まえて意識、関心を高めて欲しいと思います。

武久:学生の皆さんの意見は、私達にも参考になると思います。また大学をよくするためにも必要です。意見があったらどんどん言って欲しいし、そういうコンテンツを作りたいです。

三好:私達の活動に協力して欲しいということと、困っていることがあったら言って欲しいということを伝えたいです。あまり大きなことは言えないですけど、皆さんが日常で生活する中で自分と同じような人しかいないと思うのではなくて、様々な考え、境遇の人がいて、大学には多様性があるということを意識しながら生活する事で思いやりを忘れないでほしいということは日々思っています。

藤原:一人一人見えているものが違うと思うので、学生スタッフだけでは気づけないこともあると思います。同じになりますが意見があれば気軽に言って欲しいと思います。

井手:私たちは、1つの事柄にじっくり時間をかけて1つずつみんなで考えています。こんなにじっくり取り組める活動は他にないと思います。まずは、アンケートへの協力からはじめていただいて、一緒につくっていきたいな、何か学校生活のために行動したいなと思ったら、一度、ダイバーシティキャンパス推進室にきてみてください!お待ちしております!

感想

学生スタッフの方々が信念を持って活動をしていることが印象的でした。また、この記事を通して多くの方にダイバーシティキャンパス推進室の活動や想いが伝わって欲しいと思います。(取材スタッフ 西村)

取材を通して、多様な文化や考え方を理解するためには先入観から決めつけるのではなく相手の声に耳を傾ける姿勢が重要だと思いました。この記事が多くの読者の皆さんに届くことを願っています。(取材スタッフ 小野)

長谷さんや学生スタッフの方々の話しを聞き、ダイバーシティに関する新たな発見が多くありました。さらに、まずは何事も知ることが重要だと感じたので、今後の機会に生かしていきたいと思います。(取材スタッフ 河合)

初めてトリせつの制作に関わり、取材では緊張から主体的に取り組めなかった経験を次回に生かしたいです。(取材スタッフ 宮下)